



## 日本山岳会千葉支部第1回通常総会報告



2008年5月11日(日)午後1時半より、京葉銀行文化プラザ(旧千葉市文化交流プラザ)において、日本山岳会本部から来賓に神崎副会長をお迎えし39名の会員が出席をいただき、第一回千葉支部通常総会を開催いたしました。議案の審議に先立ちまして、篠崎支部長より次のような挨拶がありました。

『昨年6月に設立総会を開催して1年が経過、第1回目の通常総会を迎えることができました。これも、今日ご出席の皆さまをはじめ支部にご入会いただいた会員皆さまのご支援のたまものであり厚く御礼申し上げます。「新しい出会いの場をつくり、クラブライフの向上を図る」ことを目的として活動を開始、まだまだ至らぬ点が多々ありますが皆さまにご意見を寄せていただき充実を図っていきたく思います。今年は、前年度に引き続き千葉の里山歩き、懇親会、講演会、他支部との交流等を推進していきます。千葉支部は東京に隣接する唯一の支部であることから、委員会活動など本部への協力も積極的に行っていきたいと考えて

います。公益活動については、里山の保全、青少年の登山指導あるいはその他のボランティア活動などなど何ができるか検討していきます。最後に、支部運営について、会員の皆さまに積極的にご参加していただき力を貸してくださいようお願いいたします。』

司会担当の事務局の諏訪より、3月末日での有権会員数105名の中で、本総会出席者39名、委任状出席者49名、合計の出席者人数88名であり、規約に定める定足数(会員数の三分之一、35名)を充たし本総会が有効に成立したことを確認しました。そのうえで、規約第8条に基づき、支部長篠崎仁が議長となり、下記の各議案を逐次検討いたしました。その結果、いずれも各原案通り可決されました。各議案の詳細については別紙にてご参照願います。尚、三木委員のお陰で、千葉支部総会の模様が昨年設立総会紹介記事と同様に5月12日の千葉日報朝刊紙上に掲載されました。

(諏訪吉春)

## 千葉支部講演会に参加して

去る3月11日に千葉支部主催の「日本アルプスとカルパティア山脈の山岳景観の比較」と題した講演会が千葉支部会員の明治大学名誉教授小疇尚(こあぜたかし)氏を講師に迎え開催されましたことは会報「山」4月号に篠崎支部長から簡潔に報告されております。今回、支部便りに再度掲載するのは会報誌上では字数制限がありその詳細な内容までは伝えられず、また、今後、千葉支部主催の講演会を毎年定期的に行う予定であり、その記念すべき第一回目の講演会を広く会員の方に紹介したく取り上げた次第です。しかしながら、講演会は非常に専門的かつ学究的内容の密度の濃いものでしたので、素人の私にはどこまで先生の講演の内容をお伝え出来るか解りませんが事務局の一人として参加した者として、先生の講義資料をお借りして纏めてみました。



- ① 参加者は千葉支部会員を含めて34名で104号会議室は定員一杯の盛況振りでした。
- ② 講演は最初に先生より本演題の要旨を簡潔に紹介され、日本アルプスとカルパティア山脈の比較の中で、共通項として、ほぼ同じ高さで、ともにハイマツ帯があり、氷河地形が発達しているが、日本アルプスには氷河はない。その氷河地形やハイマツ帯の規模の相違の原因を両山地の山岳景観を比較しながら、先生ご自身で

2007年8月24日～9月7日にかけて山行した際に撮影された膨大な写真のスライドを見ながら、実に解りやすく臨場感溢れた説明をなされ、参加者の多くの共感を得ておりました。

- ③ カルパティアはアルプスの東にハンガリー盆地を囲むように「つ」の字状に続く全長1600kmの山脈で、その最北部(北緯50度弱)にタトラ山地が位置しています。タトラ山地は幅10～15kmの細長い盆地をはさんで2500m以上の岩峰が連なる北側のハイ・タトラと最高が2000mをわずかに超える全体になだらかな南のロウ・タトラに分かれている。ハイ・タトラ山地と槍・穂高連峰との比較では、山の高さが揃っている。周囲が急斜面である。また、ハイ・タトラは圏谷(カール)の底が平らで広い、U字形の急峻な谷底、や一部階段状の谷底があり多くの氷河湖が形成されている。
- ④ タトラ山地は氷河時代といわれる第四紀更新世(160万年前以降)の後半に少なくとも3回、氷河が発達してその作用を受けたと考えられている。氷河は1万年前頃から急速に縮小して、最後に残った稜線直下の圏谷(カール)氷河も8000年前頃には消滅し、あとに多くの圏谷と氷蝕谷(U字谷)を残した。タトラ山地の氷河地形の特徴は氷蝕谷の源頭部が複数の圏谷に分かれていることで、そのため、谷頭が幅1～3kmの扇状に広く開けている、周囲の岸壁を間近に仰ぎ見ることが出来る。その点では、日本の代表的な氷蝕谷である槍沢や白馬岳東面の松川谷と比較するとその違いが良く解り、タトラ山地と日本アルプスの氷蝕谷の縦断面スライドにより検証した。

⑤タトラ山地の垂直分布帯は 900－1200m がモミを主とする針葉樹林に広葉樹の混じった針広混交林帯、その上部がトウヒを主とする針葉樹林帯で、森林限界が 1550－1650m になり、その上 300m にハイマツ帯になっていて、平滑な岩塊斜面と広い圏谷底が密生したハイマツ群落に覆われている。ヨーロッパのハイマツは二葉のゴムマツで日本の五葉のハイマツとは違うが、姿、形や群落の様子、分布場所などが大変似ていて、よく見なければ両者の違いはわからない。平滑な岩塊斜面が広い面積を占めているタトラ山地には、北海道の知床半島や大雪山、乗鞍

岳などで、「ハイマツの海」と形容されるもの以上に見事なハイマツ群落が存在している。ハイマツ帯から上は岩屑と高山植物の世界になり、さらにその上位は雪氷のゾーンがある。

⑥ 当日の講演の内容についてはまだまだ沢山の、ご紹介したい事項がありますが、紙面の関係で省略させていただきますが、日本の山は牧畜が盛んであったヨーロッパと違い人間の手が触れずに自然が貴重に残されていると言われた最後の言葉が大変印象に残りました。

(諏訪吉春)

## 内浦山県民の森・清澄寺の自然観察会に参加して

期 日: 2008年3月15日(土)～16日(日)

場 所: 内浦山県民の森・清澄寺

参加者: 赤井一隆、遠藤宗男、大渡英子、小沢けい子、川越尚子、篠崎仁、諏訪吉春、竹島正義、富澤克禮、豊倉さと子、南井英弘、松澤君子、柳下忠義、結城純一

春の訪れを身体に感じる3月15日・16日。千葉支部企画の内浦山県民の森・清澄寺の自然観察会に参加しました。豊倉さんと職場が同じだったことがありお誘いをうけて会員ではありませんが参加しました。



行川アイランドに14名が集合、森林インストラクターの望月力智氏の案内で、おせんころが

しからの断崖から太平洋を眺めました。その後道路歩きですが、太平洋や、マテバシイ、シダ類など見ながら日蓮聖人誕生の地を記念して建てられた由緒ある誕生寺を見学しました。その後安房小湊駅まで歩きマイクロバスに乗り、今日の宿である「森の宿せせらぎ」に到着しました。到着後は内浦山県民の森のウラジロガシ、スダジイなどの常緑広葉樹林を望月氏の案内で観察しました。

食事前に会議室で望月氏による講義「房総半島の自然と植生について」を学習しました。房総半島の成り立ちや樹木について興味深い話を聞くことができました。学習後は参加者全員での夕食を美味しくいただきました。

翌日は鳥の声でのめざめも早く、素敵な宿泊施設から、県民の森を経て関東ふれあいの道

を經由し清澄寺まで歩きました。望月氏からいろいろ話話を伺いながら、やぶ椿の愛らしい花、かごの木の木肌の美しさ、ばくちの木ははじめ出会った珍しい木、くろもじの木、シダが何年物かがわかる話等、学びの多い散策でした。

日蓮宗開宗の名刹である清澄寺は300メートル足らずの山でしたが、勾配があり私にとってはかなりきつく心臓がドキドキしました。私よりかなり年配の方もおられたようでしたが、足どり

軽く歩かれさすが日本山岳会のメンバーの方々。いろいろたくさん山を征服なさっているのだろうあとを思いながら私も頑張って歩きました。この名刹は1200年の歴史があり境内に国指定天然記念物の清澄の大杉(千年杉)もみることが出来ました。仏舎利塔で皆さんと昼食をしてから解散となりました。

自然の中で身も心も癒され、山友は親しさがあつた良い時間を過ごしましたこと感謝です。

(大渡 英子)

## 春の花嫁街道(鳥場山)ハイキング

期日:2008年4月5日(土)

場所:鳥場山(266・5m)

参加者 三木雄三、篠崎仁、諏訪吉春、小沢けい子、高橋正彦、赤井一隆、芳賀淳子、櫻田直克、松澤君子、竹島正義、遠山多喜子、小高

千葉支部主催春を訪ねての山行を外房に面した鳥場山(通称花嫁街道)を計画し会員の三木さんにガイドしていただいた春を満喫した楽しいハイキングでした。JR外房線和田浦駅9時39分着の電車で全員集合しました。駅前参加者の紹介と注意などがあり駅前を出発。当日私の友人とその孫小学校6年と4年も参加し中高年?の中で明るく元気な子供に皆さんが自分のお孫さんのように楽しんでいました。ハイキングコース入口までは舗装道路を歩き、入口からは外房線の踏み切りを渡りどかな小道を行くと花嫁街道入口に着きました。このトイレの匂いが強く子供2人が用足しでもないのに中には大声で臭いと云って大はしゃに思わず全員が大笑いでした。ここからは登山道になり樹林帯の緩やかな登りとなり、やがて第一展望台に到着。ここで初めて鳥場山が見えました。シイの巨木やヤブ椿が咲く小ピークを幾つか越えて第二展望台。更に不思議と云うか見事と云うかマテバシイの林に皆が感嘆の声があがる純木林でした。林をぬけるとシ

イの巨木が岩を抱き込んだ経文石に到着します。経文石からほどなくして落人伝説の地名にまつわる自害水に着く。ここはカエデやミズナラなどの広葉樹があり新緑、紅葉のころは見事だそうです。この先の駒返しで鋭角に東へ曲がるとカヤ場に到着です。左に五十蔵方面の分岐を見送れば南側の展望が開けた草地の第三展望台に着きました。五十蔵がまるで箱庭のように眺められ背後の山越しには外房の海が見渡せる絶好のポイントです。昼をやや過ぎましたがここで昼食を取りました。子供達も景色に堪能しながらのランチを楽しんでいました。お腹を満たしいざ鳥場山の最後の登り、階段状の道を一步一步登って山頂に着きました。駅からここまで約6キロ半の道のりでしたが、落伍者もなく全員が山頂に立ちました。特に2人の子供も元気で登れたことに大満足のような様子でした。山頂には花嫁街道の名に由来する小さい花嫁の石造がちょこんと置いてあり今までの疲れを癒してくれました。山頂には三角点があり、伊予ガ岳、高岩山、清澄

山、太平洋などが見渡せました。全員の記念写真を撮り終え下りは花婿コースと名称が変わりゴール目指し下山。道は整備されているので迷うことなく尾根を下りコースの展望台へ下りです。ここでアクシデントが起きました。私の友人の靴底が剥がれ歩行不能になり大ピンチ。このピンチを高橋さんが靴紐でアイゼンハンドを締める要領にて応急処置でピンチを脱出しました。この処置に一同が思わず感嘆し納得しました。その後もう片方が剥がれましたが再度高橋さんの処置にて解決しました。後日私から高橋さんへはお礼の返事を出し感謝の意をお伝えしました。急斜面を慎重に下り見晴台へ到着。第三展望台ほどの雄大さはありませんが桜が見事に満開でした。ガイド役の三木さんの話では皆にこの桜と絶景を見せたくてガイド役をかっててたそうです。それは見事で言葉では表現出来ないほどの風景に

皆が大満足。この場所を誰もが歩き出しそうもないので大休止となりました。更に金比羅山から急降下して黒滝に到着。私は今まで千葉県滝と云えば養老溪谷の栗又の滝だと信じていました。しかし水量、落差においても栗又の滝をしのぐ滝でした。落差は15mですがもっと高いのではないかと。千葉県随一？の滝ではないと感動しました。滝を後にしはなその広場へと向かいこのコースの最終地に全員がゴールしました。広場からはのどかな田園の道を歩いてハイキングコース入口に到着しました。ここで登山は散会となり、登山の反省？を兼ねた慰労会をやりました。和田浦町は日本三大捕鯨地のひとつで鯨料理に堪能したようです。私と友人は子供2人がいたので参加出来ませんでした。

(櫻田 直克)

## 低山二題

花と言えば「桜」をいうが、平安の頃は梅、それも白梅をさしたと聞いたことがある。そんな梅でも見るか、と会社の仲間に誘われて「鎌倉アルプス」を歩いたのは3月初め。鎌倉は何年ぶりだろうか、小学校の遠足や中学生のころに川端康成の小説に触発されて何度か歩いて以来だから40年以上たつ。その頃は「京浜アルプス」と呼ばれていた。

北鎌倉の明月院の裏手から上がれる道があり、一汗かくころ七里ヶ浜が一望できる「半僧坊」。道は尾根になり、茶店のある「天園」に着くと、「あれ、どっかで見かけた顔だなあー」。相手もこちらをチラチラ見ているのではないか。

もしかして「千葉支部の…」。「はい、やっぱりそうでしたか」。

鎌倉から1週間後、合併で甲州市と名を変えた塩山の「小倉山」へ行った。ザゼンソウの群生地が有名になり、最近の花を目当ての観光客も多いという。

群生地から少し離れた平沢集落から小倉山をひとまわりするコースがあり、そちらに向かった。アカマツとシラカバの疎林に残雪がまだら模様。やがて前から十数人の集団と出会った。「あの一、この道は…」と先頭の女性。「はいはい」と受け答えした直後、「あれー」。「こんにちは」。「どうして…」。「花を見に」。ここでも千葉支部の人とお会いした。

なんだか、楽しくなった。クラブの人に出会うことが、こんなにも楽しいことだとは…。帰りの電車では、都岳連の役員の女性と出会うというおまけまで付いた。

(三木 雄三)

## 北海道山行のご案内



(旭岳と姿見の池)

北海道支部との交流を兼ねて旭岳に登ります。

日程:9月11日(木)~13日(土)

11日 旭川空港→旭山動物園→旭岳温泉

・ANA 東京羽田 10:30→旭川 12:05(4733便、機種763)

・JAL 東京羽田 10:30→旭川 12:05(1107便、機種AB6)

空港到着後、人気 No.1 の旭山動物園に立ち寄ります。

宿泊:旭岳温泉 白雲荘 Tel. 0166-97-2131

12日 大雪山・旭岳登山 →札幌へ

夜は、札幌市内で北海道支部との懇親会を行います。

宿泊:芳賀孝郎さん(千葉支部顧問)のご厚意により、芳賀さんのご自宅に泊めていただきます(申込先着8名限り)。他の方は市内ホテル

13日 午前中 大倉山から尾根歩き三角山(311m)

13日の帰りは、各人の都合によりそれぞれ自由とします。

(参考)新千歳空港 発

JAL 新千歳 16:00→東京羽田 17:30(JL524便)

ANA 新千歳 16:30→東京羽田 18:05(NH70便)

★申込締切 7月20日

## 秋の上高地スケッチ、カメラ山行案内



槍、穂高から北アルプス山系を目指す玄関口に当たる上高地のスケッチ、カメラ山行を企画しました。既に回を重ねて訪れているメンバーも多いことと思いますが紅葉に彩られた大正池から上高地銀座(河童橋周辺)の山塊を更に見直してスケッチブック、カメラに収められてはいかがですか。また、スケッチ、カメラにかかわらず参加して自由に散策をお楽しみ下さい。(後藤三男、津田麗子、結城純一)

日程 10月25日(土)~26日(日)1泊2日(連泊可)

行程の詳細は後日参加者にお知らせします。

(参考。千葉一松本直通)

AM 6:38 6:53 7:08 7:30 10:23 10:50 12:30

千葉一船橋一錦糸町一新宿一松本一島々一上高地

費用(交通費)JR千葉一松本を基準として片道

4620円特急自由席 2310円(指定席 2820円)×往復

松本電鉄松本一上高地駐車場、往復 4400円(片道 2400円)

宿=上高地山研(上高地山岳研究所)

TEL:0263-(95)-2533

FAX:0263-(95)-2635

宿泊費 日本山岳会員、その配偶者と子供一人につき 3000円

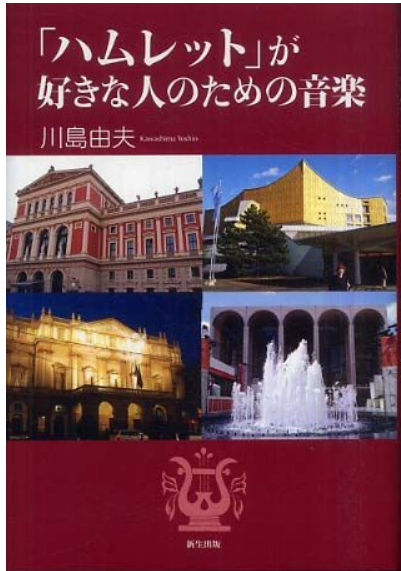
非会員、千葉支部会友 4000円

食事は村営食堂から提供して頂く予定 1500円ぐらい

募集 25名程度

## 支部会員著書紹介

川島由夫著『「ハムレット」が好きな人のための音楽』（新生出版、2008年5月）



昨年の年次晩餐会で、川島さんの著書『心に山ありて』を展示紹介した。今回は、クラシック音楽に寄せる川島さんの熱い思いが語られている。音楽評論家宇野功芳氏は、本書を次のように推薦している。「耳に快く響き、癒しを与えてくれるものだけが音楽なのではない。心に深く響く音楽を求めて半世紀、著者の音楽に対する熱い思いを語る一冊。」

私自身も頁を繰りながら、私自身の愛聴曲のコメントに共感する一方、今までに聞いたことのない数々の曲の紹介を読みながらまた新しい世界が広がっていくのを感じた。

（篠崎仁）

## 千葉支部会友について

先日の総会で会友制度が出来ました。

別紙の総会時の資料に出ておりますが、新しい規約が下記のように出来ました。会友申込書を同封いたします。友人・知人を会友にお誘い下さい。

申込用紙は複数の場合はコピーしてお使いください。

第1条 会友は支部が主催する集会、山行、講演会等の行事に参加することができる。但し支部総会等における議決事項についての議決権を有しない。

第2条 支部会友の入会金は、1,000円とする。また、年会費は3,000円とし、毎年6月末日までに納めるものとする。但し、婚姻関係にある者が共に支部会員または会友の場合に限り、いずれか1名の年会費を減額し2,000円とする。この場合は、支部からの文書配布はいずれか1名とする。

支部会費を未納の会員には、会報その他の連絡を停止することがある。

第3条 支部会友が3カ年以上年会費を滞納した場合は、支部委員会の議決により除名することができる。

### ● 編集後記

支部便り第2号の「年次晩餐会」の記事の文面で芳賀顧問のお名前を間違えておりました。文中の芳郎様ではなく正しくは孝郎様です。お詫び申し上げます。（諏訪吉春）